

# 2013年サワラ春漁の漁況予報

平成25年3月22日

香川県水産試験場

## 1. 2012年発生量の推定

2013年春漁期のサワラの漁況予報を行うためには、2012年における0歳魚の発生状況を知る必要があります。

2011年以前の発生群については、独立行政法人水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所により、瀬戸内海系群の資源尾数が推定されていますが、2012年発生群については、現時点では、香川県水産試験場による最近の調査データから推定しなければなりません。

そこで、2002～2011年について、香川県海域の0歳魚についての種々の調査データと、瀬戸内海区水産研究所により推定されている0歳魚資源尾数（9月1日時点、以下同様）との相関を検討しました。

その結果、0歳魚資源尾数との関係を回帰直線で表した場合に、次の2項目が当てはまりが良いことがわかりました。

- ・香川県海域全体における0歳魚の放流魚混入率（通年の値）と瀬戸内海全体における有効放流尾数（大型尾数+小型尾数/4）から算出した稚魚尾数
- ・東讃地区の大型定置網4統における9～11月のキノゴ漁獲量（特異的に多かった2010年を除く）

この2項目について、回帰直線に2012年の値を当てはめて、2012年の0歳魚資源尾数を推定したところ、それぞれ、947千尾、1,023千尾となりました（図1、図2）。

以下、2012年の0歳魚資源尾数を980千尾として、漁況予報を行うこととしました。

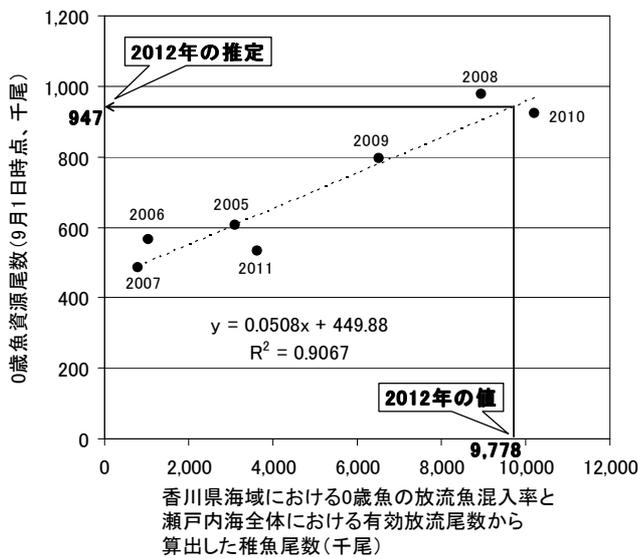


図 1

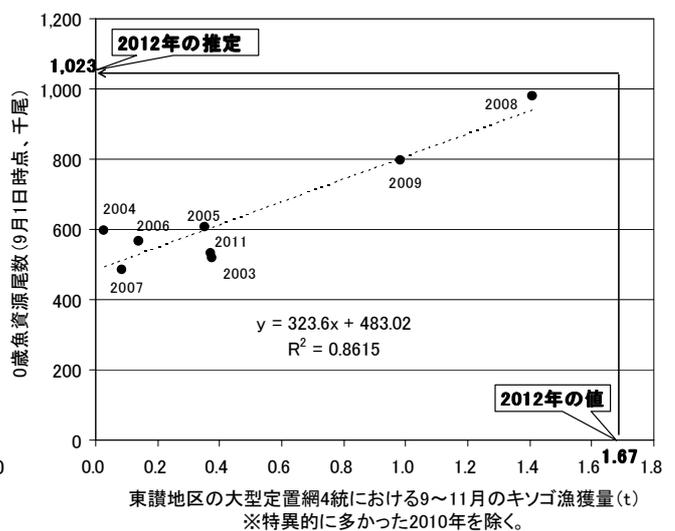


図 2

## 2. 2013年春漁期の漁況予報

2008年発生以降の年級群について、0歳時の資源尾数と春漁期における年齢を表1に示しました。

表1

年級群	0歳時資源尾数 (9月1日時点) (千尾)	春漁期における年齢		
		2011年	2012年	2013年
2008年発生	979	3歳	4歳	5歳
2009年発生	795	2歳	3歳	4歳
2010年発生	924	1歳	2歳	3歳
2011年発生	532	—	1歳	2歳
2012年発生	980	—	—	1歳

資源尾数は、加齢に伴って減少していきませんが、発生量の多い年級群は、それなりに多く残っていきます。0歳時の資源尾数に基づいて、2013年春漁期の資源尾数を年齢別に、2012年春漁期、2011年春漁期と比較すると、次のようになります。

- ・3歳魚：2012年春漁期の3歳魚より多く、2011年春漁期の3歳魚と同程度であると予想されます。
- ・2歳魚：2012年春漁期の2歳魚よりかなり少なく、2011年春漁期の2歳魚より少ないと予想されます。
- ・1歳魚：2012年春漁期の1歳魚よりかなり多く、2011年春漁期の1歳魚と同程度であると予想されます。

2010年発生群は、2012年春漁期において、特に播磨灘で2歳魚としてたいへん多く漁獲され、香川県における漁獲量の増加に寄与しました。この群が3歳として再び来遊することを期待したいですが、尾数としては2歳時よりは大幅に少なくなるでしょう。

これらを踏まえて、2013年春漁期の漁獲重量を銘柄別に推定すると、サワラについては、2歳魚(3kg程度)が主体となり、2012年春漁期よりかなり少なく、2011年春漁期よりやや少ないと予想されます。一方、サゴシ(1歳魚)については、2012年春漁期よりかなり多く、2011年春漁期と同程度であると予想されます。

サワラについては残念な予想ですが、サゴシがかなり多そうですので、2014年春漁では2歳魚としての漁獲が期待できそうです。

サワラ瀬戸内海系群についての資源評価は、水準は低位、動向は増加とされています。春漁においては、これまでと同様、目合の規制、週休日の設定により、資源管理に取り組んでいきましょう。